



世紀を超えて培ってきた素材力を核として
より多くの社会的価値を創造できるよう
注力していきます

— 古河電工は今年 2014 年で創業 130 年とのことですが、これまで 130 年もの長い間、日本を代表する企業として事業を続けることができた理由は何だとお考えですか？

当社は 1884 年に創業して以来、銅、アルミ、樹脂などの幅広い分野の素材技術をベースに、電線・非鉄金属メーカーとして社会・産業の基盤であるインフラ構築を主たる事業領域として歩んできました。130 年にわたり、製品やサービスが社会に受け入れられ、高い評価をいただいていたのは、従業員全員がどのような経営環境にあっても常に未来への視点を失わず、日々変化する社会の期待や要請に耳を傾け、絶え間ない技術革新によって新たな事業を生み出そうとする姿勢をとり続けてきたこと、また、それをステークホルダーの皆様を支え続けていただいたことが理由だと思っています。

— 社会貢献への意識と技術革新への継続的チャレンジ姿勢が非常に重要だということですね。サービスの提供という社会貢献のほかに、環境面などで事業を継続することができた理由はありますか？

当社が長い間、事業を継続してこられたのは、当社の製品の多くに使われている銅をはじめとする原材料などの鉱物資源を継続的に確保できたことも大きなポイントでした。つまり、130 年もの間、生態系サービスから恩恵を受け続けてきたのです。ですから、私たちは資源の再生・リサイクルもいち早く行ってきました。例えば、廃棄された電線ケーブルに使われている銅線を再生して製造に活かしたり、銅の加工製品の製造過程で発生した端材を再生利用したりと、まだリサイクルという言葉が一般化していなかった時代から当然のこととして行ってきました。また、廃棄されたプラスチックをリサイクルしてケーブルの配管製品に利用したりもしています。

— では、将来に向けて事業を続けていくための重要な課題と、それらに対する取り組みについてお話しいただけますでしょうか？

中期経営計画のコンセプトにも掲げているように、グローバル市場の成長期待と技術革新のニーズが高い「インフラ/自動車市場」に注力し、次世代新事業を育成していくことが重要であると考えています。これらは、「世界が抱える社会的な課題を当社の事業を通じて解決していきたい」という思いに根差したものでもあります。

インフラ市場では、まず、地球規模のエネルギー問題について、いかにエネルギーを効率的に利用するか、その際いかにインテリジェントに制御するかというスマートインフラがテーマとしてあります。当社の得意分野である光通信技術での

制御によって電力エネルギーを効率よく使う仕組みを実現すること、そのために当社グループが一体となって新たな技術にチャレンジすることが重要な課題です。

また、自動車についても化石燃料・電気(エネルギー)の効率化、省エネという世界的規模での問題がありますが、当社グループが長年培ってきた自動車部品に関する技術に、光通信技術と電力エネルギーの技術をインテグレートして新たな技術として取り組むことが重要な課題です。

— 最後に継続的な事業活動をもっとも根底で支えているものは何でしょうか？

事業活動を根底で支えているのは、従業員一人ひとりの意識であり、その大前提となっているのは、安全・品質・コンプライアンスです。当社グループでは、企業の社会的責任の観点から役員および従業員がとるべき基本的行動を「古河電工グループ CSR 行動規範」として定め、法令遵守はもとより、社会規範・企業倫理に即した行動をとること、安全や品質などに対する意識を高め実践することを求めています。

ここ数年は、グループをあげて競争法違反問題の再発防止の徹底、また国際的な贈収賄規制に対応する体制整備を図っています。また、今年(2014年)2月に発生した日光事業所での雪害では、復旧対応がBCM(事業継続マネジメント)の実践経験となり、これを全社的なBCM強化に活かす取り組みを始めています。今後はこうした組織基盤の状況をグローバルな視野でモニタリングしながら、事業活動そのものを通じて世界が抱える課題を解決し、より多くの社会的価値を創造できるよう注力していきたいと考えています。

最後になりましたが、是非一人でも多くの方に本レポートをご一読いただき、当社をより広く知っていただければと願っています。

ありがとうございました。